

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう。10年、20年後の長野県」

日 時 平成29年6月3日（土） 13時30分から17時15分まで

場 所 まちなかキャンパスうえだ（上田市）

目 次

1 開会・趣旨説明	P 1
2 知事あいさつ	P 2
3 グループ発表	P 3
4 知事とのディスカッション	P 5
5 知事総括コメント	P 38
6 閉会	P 41

【参加者】 24人（公募による概ね30代までの一般県民）

長野県知事 阿部守一

進行役：吉澤茉帆さん（まちなかキャンパスうえだ コーディネーター）

13時30分から15時まで各グループで意見交換を行い、15時から知事とのディスカッションを行いました。

※15時までの意見交換の内容は省略してあります。

1 趣旨説明

【進行役 吉澤茉帆さん】

ここは『まちなかキャンパスうえだ』という場所です。昨年の7月にできたところです。

市内に4つ大学があって、信州大学、長野大学、女子短期大学、工科短大が主に連携しているサテライトキャンパスになります。普段はいろいろな活動を学生たちがしていたりとか、あとはゼミで使ったりしてもらっていますけれども、こういうイベントや講座にも使っていた

いております。

今日は、この『まちキャン』に来ていただいてありがとうございます。初めてまちキャン来たって人はどのくらいいますか、ほとんどの方が初めてですね。よろしくお願いします。

今日は、皆さんの思っていること、考えていることを一緒に深める時間になればと思っていますので、よろしくお願いします。

【進行役 吉澤茉帆さん】

それでは始めていききたいと思います。まず最初に阿部知事からごあいさつをいただいて、その後、グループごとにどんな話をしたかというようなことを発表してもらいたいと思います。

それでは知事、お願いします。

2 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは、私は長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いいたします。

手話であいさつさせていただきましたけれども、今日は県政タウンミーティング、大勢の皆様方にご参加をいただきまして、ありがとうございます。

今日は、長和町で植樹祭をしております、後半戦から出場ということで、これからは私も一緒に皆さんと長野県の未来を考えていききたいと思いますので、ぜひあと約2時間、つき合っていたきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今日は「まちなかキャンパスうえだ」を利用させていただきまして大変ありがとうございます。また吉澤さんにも、進行役ということですが、ぜひよろしく。

ということで、これまで皆さん、それぞれのテーブルごとに話をできていただいていると思いますので、最初に発表してもらって、私、できれば皆さんと対話をする時間をなるべく長く取らせてもらいたいと思うので、できれば5分ぐらいにまとめてもらって、テーブルで誰か代表して簡単に、こんなことを話していたとか、こういうことをしていきたいなというようなことを。

その後、私が皆さんの意見を引き出すようにしますので、最初、主な話題とかテーマ、方向性とか、そういうところをちょっと誰か代表で話していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ありがとうございます。それぞれのテーブルでどんな課題とかアイデアとか、こうなったらいいなということが出たかということ、テーブルごとに1人お話しいただきたいんですが、よろしいですか。

3 グループ発表

【Bグループ】

このテーブルでは、普段、社会の荒波にもまれている大人2人と、未来のある若者2人の4名で構成されたテーブルでございます。

このテーブルで出た意見としましては、若者の皆さんからは、これから公務員になりたい、そういった夢がおりという話が出ました。それからこの地域というのは人口が減っている。人口が減っているって何でかっていうと、やっぱりこの地域に魅力がないからなんじゃないかということが言葉に出てきたんですけれども、その魅力をいかにつくっていくか、または再発見していくか、そういったことをあらためて発見していくと、U・Iターンに結びついていくんじゃないかというふうに意見が出てきたんです。

例えば話として出たのは、消防団の今後についてというのも、テーマとして出たんですが、消防団もある意味、税金で運営しているので公務員という側面もあるので、やはり前例にならってという場合が非常に多いんですね。私ももちろん地域で消防団として活動させていただいているんですが、火消しをするだけでなく地域防災だったり、地域住民の皆さんにどのようにこれから役に立っていくか、必要な組織だと思っているか、これから変わっていく時代に合わせて、消防団という組織もどうあるべきかという話題も出つつ、私も思ったことなんですけれども、やはり地域のシニア世代だったり、若者や一人一人が地域で活躍して活動していけるような世の中。シニア世代でしたら、今までの経験や知識を若い人たち世代に継承していったら、よりその存在価値を発揮していただきたいのと、私としてはですけども、若い世代には、公務員だけでなく起業したり、さまざまなやりたいこと、夢にチャレンジしてほしいというふうに私は思っております。そういったさまざまな意見が出たテーブルでした。以上となります。

【長野県知事 阿部守一】

今のテーブルのテーマは少子高齢？

【Bグループ】

基本的にはそうですね。こちらのテーブルは少子高齢化ということで挙げさせていただいたんですが、さまざまな意見が出てまいりました。

【進行役 吉澤茉帆さん】

では次お願いします。

【Dグループ】

自分たちのテーブルは教育について話し合ったんですけど、その中で多かったのが、学校というコミュニティとかの中で区切られちゃって、外に行って学ぶということが少ないとか、そういうことについて話し合いました。

アイデアとしては誰でも、例えば、障がい者の方や健常者が分け隔てなく接する学びの場だったり、あとは学校にいる高校生とかが外の地域と連携して学んだりするというアイデアです。

【進行役 吉澤茉帆さん】 それで、こう将来こうなったらいいなみたいなものっていうのは何かありますか。

【Dグループ】

将来こうなったらいいというか、勝手な自分の考えなんですけど、誰でも外に出て学べる地域になったり、あとは、とりあえずやってみる、何でもいいから挑戦してみようという人が増えていったらいいなと思います。

【進行役 吉澤茉帆さん】

はい、ありがとうございました。こちらにいかがかな。

【Aグループ】

皆さん、こんにちは。ここのグループは、観光、暮らし、あと遊びっていうような部分をテーマに話し合いをしました。ここのメンバーなんですけれども、県内出身の学生さん4人と県外からこちらに来ている大学生1名と、あと私はIターンで長野県に来たという、そんなメンバーで話をしました。

現状ですけれども、地元の学生の皆さんに聞いたところ、最終的には、そんなに、この辺、好きでもないし嫌いでもないという中立的な話かなというところで、何があたらいいとかっていうのもあまりなく、周りで東京に出ていく人たちが多いう認識の中で、東京っていうのは何でもあるから、いろいろあるから出て行くっていう、そういう人たちが多いうんじゃないかっていうところでした。

こんな社会にという未来像は何だろうといったところでは、このまま続けばいいんじゃないという意見や、今は10代だけれども、40代ぐらいになったら実は長野県の良さに気づくかもしれないという、長野県の魅力で語られている部分って、結構、大人にならないとわからないのかもしれないというような意見。あとは、長野県内でちょっと魅力的かなと思える場所は、何となく軽井沢みたいなのところのイメージって何かいいよねっていうのと、あと県外だと神戸とか横浜みたいな、何となくおしゃれ感があたらいいなとかというところ。でも、無いものをつくるってなってくると、都会に寄ってっちゃうので、都会ではなくて自然とかをうまく使った地域になっていったらいいんじゃないかというところですよ。

アイデアとしては、今もいろいろやっている音楽フェスとか、あと県内いろいろなライブホールとか、広い場所があるので、そういったところでこまめにいろいろなライブがあたら若者は行くんじゃないかというところ。あと、長野県で顔見知りをつくりたいという理由で来ている留学生が多いので、そういう人たちと地元の人たちをもっと交流させるような活動というのを、もっとやっていけたらいいんじゃないかというようなアイデアが今のところは出ていません。以上です。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ありがとうございます。では最後。

【Cグループ】

私たちがまとめたものは、産業と仕事です。こんな社会になったらいいなということでは、みんなが健康で健康分野の産業が伸びたらということをもとめてみました。

問題点としては、進学を機に長野県を離れちゃう人がいて、離れたまま就職して長野県に戻ってこない人が増えているので、そのことが原因で長野県の人口が減少して、より高齢化が増えてしまっていることだと思います。

食の面では、長野県産のものを増やしたり、さらに給食の野菜を全てオーガニックにするとか。で、健康分野の産業が伸びるとスポーツ教育のビジネス化や、スポーツのプロを支援するってということにもつながるか。また、企業支援や企業誘致をすれば、さらに長野県で就職したい人が増えると思います。また、子どもから大人まで得意な分野があるはずだと思います。ありがとうございました。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ありがとうございます。盛り上がっているなと思ったら、いろいろなアイデアが出たということだったんですね。ありがとうございます。

4 知事とのディスカッション

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。まず、皆さんは、20代、30代、40の入り口の人たちまでの年齢層なんで、ちょっと、今、個別のテーマごとのお話の前に、今日の新聞にも載っていますけれども、出生数、初の100万人割れと、日本の人口はどんどん減っていますけれども、子どもの数がどんどん減っていますという話が出ています。テレビでも新聞でも見て何か感じたこととか、考えたことを持っている人、どれくらいいますか。

ではちょっと何か感じたことをちょっとパパッと、今、手を上げた5人、何か言ってもらえる。思ったことをバンバン言ってもらえばいいんで。

【参加者】

出生率が低くなっているということで、すごくいろいろな課題があるんだなというのがあります。晩婚化というところもそうだし、晩婚化がなぜ進むのかというところも、やっぱりその労働条件なのか、子どもを産みにくい、育てにくい環境があるのかなのかとか、もしくは都市のほうに人口が流出してしまっている部分もあるのかとか。そういうところで出生率を増やしていくには自分の立場で何ができるんだろうっていうところも、普通に子どもをつくれればいいのかとかいろいろ考えたりするんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど、ありがとうございます。

【参加者】

自分は、将来人口が少ないということは、社会の基盤なのでまずいということは当然のこと

なんですが、例えば個の自由、もしくはやりたいことを尊重できるような時代になっちゃって、例えば女性でも輝けるし、男性ももちろん頑張る世の中なんですけれども。それがちょっと行き過ぎると、ときには結婚だとか、昔は親に言われていたようなことがだんだん薄れてきて、結果、気づくとちょっと晩婚化しちゃっているというのが、個々の豊かさを大事にし過ぎちゃうと例えばパートナーを探すとか、家庭を持つという機会を逸しちゃっていて、社会が求めている、その公平だとか公正というのが、ときには弊害になっているということの難しさというのを最近感じます。以上です。

【参加者】

すごい真面目な話があった後で恐縮なんですけれども、出生率のニュース、ちょっと最近よく出るんですけれども、あれ見るたびに私はすごく心が痛んで、私、30代後半なんですけれども、結婚もせずふらふらしているので本当ごめんなさいという感じです。

私はまだ男なんで、まあまあとか笑って言えるんですけれども、同世代の女性で結婚されていない、もしくは結婚したけれどもなかなか子宝に恵まれない、もしくはなかなか結婚したけれどもちょっとやっぱりやめたとなくなっちゃった人とか、結構いるんです。そういった方々に対するプレッシャーっていうんですかね、そんなのもあるんじゃないかなと思ったりしながら、こう人が減るといふことの課題というのは重々承知の上なんですけれども、なかなかそう簡単ではない、心の問題というか気持ちの問題とかもあるので。なぜ若者は結婚しないんだみたいな文章を見るの、私、好きなんですけれども、思い当たる節と、いやいやそんなことないよとか思いながら見ている節と両方ありますので、なかなかこれはすごく難しい問題だなというふうに感じます。いつも見るたびに、一応、心は痛んでおります。頑張って結婚したいと思いません。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。ほか、手を上げた方。

【参加者】

私は一人の女性として、子どもを産んで育てることとかは、やっぱりしていきたいなという気持ちはあります。ただ、自分も将来に対して不安があって、その子どもが幸せに育ってくれるのかどうか。これからの将来に関して、子どもが幸せなのかなというところを考えると、産むのが正解なのかちょっと迷うなというのが私の今の個人的な感じです。

【参加者】

今、大学生なんですけど、院に行ったりとか、博士課程に行ったりとか、いろいろ、起業をしたいなとか、いろいろあるんですけど、でも子どもも産みたいし。でも、そうすると、自分の夢をあきらめなきゃいけないみたいな、そういう、今、葛藤している感じです。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。ちょっとほかの人もいろいろご意見あると思いますけど、率直な意見が少しずつ出てきているかなと。

今、長野県も日本全体も、地方創生って聞いたことあると思いますけど、人口減少、何とか歯止めをかけましょうということで、出生率の向上だとか、あるいは人口の社会移動で東京へ行っちゃう人間を減らして、ほかの県から来る人を増やそうということをごこの県でも、長野県でもやっています。長野県の合計特殊出生率は、2年連続上昇したけど、まだ1.59というところで、まだまだ問題があるなというふうに思っています。

ただ、さっきおっしゃっていたように、これ個人の生き方の問題でもあるんで、何か行政がこうだと、例えば25歳になったら結婚しなさいなんてことは絶対できない話なんで、まさに皆さんのこれからの選択というのを、どういうふうに考えていくのということが、皆さんの人生の問題が実は社会の問題でもあるし、日本の将来の問題にもなっているということ、まず、ちょっとぜひ共有してもらいたいなというふうに思います。

昨日、経済界の人たちが集まる場があって、私、経済界の人たちと話をするときには、どうすれば地域が元気になるか、どうすれば産業が活性化するかという話をするわけで、昨日のタイトルも「地方創生と産業イノベーション」という話だったんですけど、長野県の合計特殊出生率はこうです。これは企業の皆さんにとっても重大な問題ですよ。人口が減るっていうことは、あなたの会社に今までと同じように人は来なくなる。あるいはあなたの会社でつくっている物が、日本国内では売れにくくなると。だから企業の経営者の皆さんも、社員の働きやすい環境づくりとか、それから周り、近所にいる若い人たちの気持ちを聞いて、結婚してない人たちはどうして結婚しないのとか、あるいは子どもを産もうとしない夫婦はなぜ産まないのか、あるいは産めないのか、そういうこともちょっと一緒に考えてくださいねということも話をしたんです。ちょっとこれ縦割りになっているんですね。私は、長野県の新しい総合計画はぜひ横割りにしていきたいと思っていて、皆さん暮らしていて、これが観光だとか、これが地域の活性化だとか、これが少子化問題だとか、これが高齢者の問題なんて、そんなこと考えないですよ。私も考えません。県庁へ行って仕事をするときだけそういうことを考えますし、そういうふうに考えないとなかなか、私が言ったことを受けてもらえません。これはA部の仕事でしょう。A部の仕事を我々B部に言われても困りますというのが世の中ですよ、世の中の組織はそうなっているんで。そこは本当は変えなきゃいけないというふうに思っています。

でも役割分担があるんで、みんながみんないいかげんなことをやればいいんじゃないかと、やっぱり横断的に、Aというテーマに対しても、Bか、Cか、Dか、それぞれの課の人たちが一緒になって問題意識を共有してやっていくようにしていきたい、そういう県庁にしていこうというふうに思っています。

ですから、今日、ちょっとテーブルはこう4つに分かれてテーマが別だったんですけども、観光だったら観光のことを考えなきゃいけないっていう話じゃなくて、観光だって少子化になればお客さんが来ないですし、観光の、例えば地域の案内ボランティアをやってもらうときには高齢者に活躍してもらえばいいし、そうやって高齢者の生きがい対策でもあるし観光振興でもあるんで、まず縦割り発想はしないということで今日は話をしていきたいというふうに思い

ます。

そういう中で、まず人口の問題でいくと、私、今、何人かの皆さんにお話ししてもらいましたけれども、極めて重要な指摘をいっぱい出してもらっていると思います。

さっきおっしゃっていただいた、個々の自由を尊重していくっていうこと、それってすごく哲学的な話だと思っていますし、それ、本当はそういうことをしっかりみんなで作らなきゃいけないんだと思うんですよね。一人一人が自由に自分の生きたいように生きるっていうことは、自由主義社会なんで、それは、僕は大前提だと思いますけれども。ではそれって、世の中がどうなっても関係ないやというふうに思っているのかどうかというところが、多分、みんなと一緒に考えなきゃいけない話で。ちょっと個人的話じゃなくて行政のお話で、ちょうど、今、全国的に話題になっている、似たような例があるんで言うけれども、ふるさと納税ってあるじゃないですか、ふるさと納税。あれ返礼品でべらぼうに高価な返礼品を出して、総務省はそんなのはやめてくれと。でも一部の市町村は、そんなことをいったって、これ地元の特産品だぜと、あるいは俺たち一生懸命知恵を出して、これを返礼品にして寄附金をいっぱい集めて、それだけじゃなくて地域の宣伝しよう、あるいは地域の特産品を振興しようとしているのに、何をうるさいこと国が言っているんだってやっていますよね、新聞とかテレビでも出ていますけれども。

あれってというのは、私は市町村の立場もわかるし、私、もともと自治省にいたんで、自治省の気持ちもわかるし、どっちの気持ちもわかるんですよ。私、会見で聞かれて、いや、それは国にももっとしっかり考えてもらわなきゃいけないし、市町村もぜひ主体的責任感を持って考えてもらいたいですねと言っているんです。これは別に逃げるつもりではないんですけれども、どっちが言っていることも私は正しいと思っているんです。世の中って何か回答が一つ、正解が一つみたいなことを学校で一生懸命教えられているから、いつも何かつまらない議論に入っちゃうんだけど、世の中の正しいことなんていうのは、一つでは絶対ないと私は思っています。

このふるさと納税の議論も、総務省の立場ってというのは、地方自治を、余計なお節介な部分もあるけれども守ろうとしているわけですね、ある意味。何でかっていうと、こんな税制とんでもないというふうに世の中から言われると、ふるさと納税制度自体をもうやめようという議論が出てきますから。例えばさっきも出ているじゃないですか、みんな東京へ行っちゃうよねと。我々自治体の人間から見ると、せつかく生まれたときから、大体、中学や高校を出るぐらいまでは、地域の自治体、教育費を使っていますよ、皆さんに。一生懸命、教育費を投資して育てたら、みんな違うところへ行っちゃって、そっちで給料をもらってそっちで税金を納めているってというのは、これはおかしいよねと。だからふるさと納税みたいな形で、やっぱり自分の愛着がある地域、自分の故郷に少しでもということ。

例えば東京の中野区へ行ったらと。中野区へ行ったらけど、でも、俺、やっぱり上田が好きなんだと。でも今の税制上は、自分で稼いだお金は中野区にとられちゃう、あるいは東京都にとら

れちゃう、あるいは国から経由で来るかもしれないけど、直接、上田市とか長野県には来ないんで。そういう思いを持っている人たちの受け皿として、せつかくふるさと納税制度をつくったんで、私はあったほうが良いと思っていますので、でも今のままで行くと、あんなのおかしいからやめちまえって話に確実にになります。そういう意味で、総務省が言っていることもわかります。

だけど市町村の言っていることもわかるんですよ。せつかくこういう制度で、地域のことを発信しよう。Aという村もBという村もCという村も、若干、今まではそんなに全国にアピールすることがなかったけど、これを契機にこんな特産品があるぞということで、どんどんいい物を出して、それでお金が集まれば、地元の特産品も使ってもらえるし、自分たちのところにもお金がもらえるし一挙両得じゃないかということで、市町村はせつかくこんなに頑張っているのに国は何をうるさいことを言っているんだということで、国の言っていることと自治体の言っていること、市町村の言っていることが少しずれているわけですよ。どっちの言い分も、それなりにあるわけですよ。

多分、この少子化の問題っていうのも、さっき問題提起してもらったように、もちろん私は、個人の自由な生き方というのは尊重されなきゃいけないというふうに強く思っています。その反面、でもその生き方を考えるっていうのも、やっぱりこの日本という社会、あるいは長野県、上田市、こういうところで皆さん暮らしているんで、地域のあり方、地域のこれからの将来というものと、皆さんの人生とか生き方というのは、全然無縁ではないわけです。長野県が衰退してどうでもいいような地域になってしまっただけで、それでも住み続けたいという人ってというのは多分いないと思うんで、どっかへ行っちゃえっていう選択肢ももちろんあるんだけど、この地域のことを考える、あるいは日本ということ考えたときに、では自分たちはどうすればこの日本という国を、もっと自分たちにとって生きやすい国になるか、あるいはもっと楽しい、暮らしやすい県になるのかっていうのは、ぜひ一緒に考えてもらいたいというふうに思っています。

ちょっと前置きが長くなって申しわけないですけど、そういう意味でちょっと、この若い皆さんに教えてもらいたいのは、経済界の経営者の皆さんと話していてもあんまり皆さんの本音がよくわからないんで、この人口の話は、まず行政にとっても地域にとっても一番重要な問題だということは共有してもらった上で。

どこから行くか。最初に晩婚化。いろいろなことをやりたいから結婚と両立、どうするかなっていうふう話。多分、今の若い人たち、結構みんな、やりたいこともやりたいし、結婚と仕事をどう両立しようかなと。あるいは一生懸命仕事をしているうちに、気がついたら随分、年がいったから困っちゃったとか、そういうことになってきているんですよ。

そういうのって、私たちは問題がいろいろなところにあるなと思っていますんですけど、そういうことに何かお節介してもらいたい、何かもっとこうしてもらいたいというのはあります。それとも、そんな私たちの勝手だから、私たちに勝手に自分の人生は選ばせて、余計な

お節介はしないほういいという感じ？

今、例えば少子化対策とか、例えば不妊治療の助成も行政はやっています。それから結婚支援もやっています。あるいは仕事と家庭の両立支援で、例えば県内の企業の皆さんに、子育てとか介護が必要な人たちにちゃんとサポートしてもらうように「育ボス・あったかボス宣言」という取組もやっています。結構やっているんですよ。やっているんですけども、それだけではあまり決定打になってないというふうに思っています。

ちょっと人口の話を自分事にしてもらった上で、自分の暮らし方とか自分の働き方、今の自分の置かれている状況に照らして、どんなことがあればいいの、はい、どうぞ。

【参加者】

私、39歳で、私も独身なんです。私も自分のやりたいことを優先するという感じで、なかなか結婚に至らないというのがありますけれども。

私が思うのは、自分のやりたいことと結婚、何というんですか、両立できる生き方ができれば一番いいんですけども、今はそういう生き方を見つけるまでの過渡期にあるんじゃないかなと思うんですね。

【長野県知事 阿部守一】

それは社会全体が。

【参加者】

だと、私は思いますので。それに対して、行政の方もいろいろお節介をやってもらっても全然いいと思います。それで、必要なければ、何というんですか、必要ない施策はどんどん省いていってもらっても、それに対して、俺は自由に生きるんだという人がいて、そこら辺の切磋琢磨して行って、私はいずれかは、何というんですかね。答えが見つかるわけじゃないですけども、いいほうに改善していくんじゃないかなと、そんなふうに思っております。

それで、今日の私の一番の主張としては、消防団のあり方についてということだったんですけども。消防団に入っていて一番思うのが、消防団の運営の主体が役場の方なんですけれども、前例主義なんですね。去年がどうだったからとか、住民の安心・安全を守るために何をすべきかということを考えて、では、これ改善しなきゃいけないねとかじゃなくて、もう前例、前例で。昔はそれでよかったかもしれないですけども、それこそ本当に個人の主張が強くなっている時代にそういうことをやっていけば、もう生きにくくなってくると思いますので、そういう、行政で働く人たちの考え方も変えていく必要があるんじゃないかなと私は思います。

【長野県知事 阿部守一】

そこは全く私も同感です。ちょっとそこは時間があつたら後でやりましょう。ありがとうございました。

今の転換している過渡期じゃないかというご意見なんですけど、ちょっと皆さんほかにどうですかね。生き方と社会のあり方。そんなに難しく考えなくていいんだけど。どうぞ、はい。

【参加者】

やっぱり生き方って多様化しているかなと思うんです。やりたいこともいっぱいあるっていう問題もあるし、社会的に、対極的な問題というのは解消されないという問題もあったりとか。あとは、ワーク・ライフ・バランスでしたか、そういう仕事とライフの両立というところを考えたときに、やっぱり日本は仕事にどうしてもなっちゃうんですね。そういう世の中の問題もあるし、本当は、社会的に女性に対しての期待というのがすごく大きくなっているんじゃないかなと思っていて。基本的に女性たちが安心できるっていうところっていうのも非常に重要だと思うし、そのパートナーになる男性たちの心意気とか、そういう大きな、育メンとか、そういう問題も結構出てきちゃうと思うので。やっぱり多様性と社会の問題というのはまた違ってくると思うんで。阿部知事が言うお節介とかっていう選択肢だけではないなと、両方を何かやっていけたら。それにはやっぱり個人個人に合った相談する場だったりとか、街コンとかってというのは、どれだけ助成金があるかわからないですけど、そういう男女が出会う場とか、男女以外にもいろいろ、ダイバーシティなんでそういう、LGBTとかそういうところにも多様な価値が非常に大事じゃないかなと一部には思います。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。そうですね、私は、これからの社会、どんどん多様化していかなくちゃいけないし、多様性が重視される社会になってくると思います。

そういう意味で、ちょっと私、女性の話もしてもらって、私もそうだよなと思いながら伺っていたんですが。私は男なんで女性政策もしっかりやらなくちゃと思いながらも、本当のところ女性のお気持ちがわかってないかもしれないなというふうに思っていますけれども、さきほどの方がおっしゃっていたように、例えば女性の活躍と言っているじゃない、女性の活躍。女性の活躍って、女性はお節介に感じているのか、いいと感じているのか、どっち？もしかしたら、私、これからの社会ではもっと女性だとか障がい者だとか、高齢者の皆さんに活躍してもらわないと人口が減って、生産年齢人口と言われている働き盛りの層がどんどん減ってきている中で、社会全体を考えるともっと活躍してもらいたい。今の仕組みは何か活躍しにくいからそこを改善しようという感じですけど、逆にさっきの自由な生き方を考えるとすれば、もしかしたらお節介かもしれないかなというところもあるけど、今、女性の活躍とか言われていてどう感じているの。活躍したい？

【参加者】

私はしたいと。

【長野県知事 阿部守一】

あなたは？

【参加者】

私、看護職なので、それこそ女性の職場なんですけど、働き続けることを考えると、やっぱり自分が子どもを産んだりとか休みに入る都合上、女性は看護師にいっぱいになってもらって、

交代要員としてというか…

【長野県知事 阿部守一】

もっと女性が働けるように？

【参加者】

その方が育休をとるとか休めるのかなっていうことで。

【長野県知事 阿部守一】

そこはみんなコンセンサス？みんな、ここにいる女性の人たち？では女性は活躍したほうがいい？マルカバツかといったら、どう？

【進行役 吉澤茉帆さん】

30代なんですけど、だんだん活躍したくなくなってくる。

【長野県知事 阿部守一】

それはどうして。

【進行役 吉澤茉帆さん】

社会でいろいろ活躍したいっていう気持ちと子どもを産むっていうことを一緒にやろうと思うと、それは無理だよっていう気持ちになってくるんで。

【参加者】

それはわかります。私はその準備に入りたいわけじゃないですけど。

【長野県知事 阿部守一】

それはさっきそういうふうにおっしゃっていたよね。そこだよね。

そうすると、まず女性は活躍したいということは、コンセンサスとして、その次に、そうはいっても子どもを産み育てるのと働くのと両立できないじゃないのっていう感じ？

【進行役 吉澤茉帆さん】

そうですね。そこが何かスイッチしていて、子どもを育てることに専念すると、それは活躍ではないのかみたいな。

【長野県知事 阿部守一】

そこはどうなの。ここで子どもがいる人？

この中で子どもがいる人はみんな男だけど、では奥さん働いている？

さっき、ちょっといろいろ世の中、変わり目じゃないのとおっしゃっていましたが、私もそう思うんですが、奥さんと自分との関係って、今の役割でいいなって思う？それとも、いやもう少し自分で子どもの面倒を見なきゃいけないのかとか？そこら辺、率直にいうとどんな感じで生活していますか？

【参加者】

共働きで子ども2人いるんですけど、やはりちょっと幾つか例を挙げると、子どもが2人できて育っていく過程を見ていく中で、やっぱり男性にはできないことが女性にはあって、子育てなんて当然、輝いていますよね。そういったこともちゃんと認めるというのと、あとは、何

ていうのかな、子どもにとってやっぱりその期間ってすごく大事な期間だっということ、もっと男性だとか上司の方とかも認識してもらっただけで、全然、意識が変わるんで、例えば昔の主婦って、一つの生業（なりわい）だと思っんですけど、それが成り立っていた時代のようにちゃんと女性も活躍しているというふうに思えば、主婦でその期間、例えば期間限定してもいいと思っんです、大学生ぐらゐまで、子どもが高校ぐらゐまで育つまでの間、そういったことに専念するということのほうが実は男性にとっても、俺は逆に踏ん張って働いていうふうに割り切れちゃう。要は、お互い同じような給料を持って帰ってくることで、逆に女性のほうが負担、大きくなっちゃうっていう不合理なことが往々にしてあるんですね。中には奥様が主婦に専念していることがいいという、さっきの意見の奥様にも結構行き会います。

【長野県知事 阿部守一】

共働きとか女性も働き続けるということだけじゃなくて、子どもを産み育てるときは、一遍、子育てに専念するという選択肢もあったほうがいいと。

【参加者】

私がおもうのは、やはり若者の稼ぎが少ないというのが一番問題だと思っっていて、世の中にどんどん出て働きたいって女性はやはり社会で輝いたほうがいいと思っんですけれども、働きたくないけど働かざるを得ないという、そういう奥さんもいると思っんですね。

うちも共働きなんですけど、やっぱり若いころは世帯収入がすごい少なかったんで、夫婦で働かないと子どもを養っていけないし、生活できないっていう、そういう状況で、やっぱりそうすると夫婦ですれ違ひの時間が生まれちゃったり、自分が家に帰っても妻がいなかったり。私も3人目ほしいなあっていうふうに妻に言うんですけれども、あんた、それこそ家にいないじゃないというふうに言われちゃったりもするので。

【長野県知事 阿部守一】

お二人の言っっていることは、ちょっと微妙にベクトルは違っただけど、どっちもそのとおりだと、私、思っんですよね。共働きしなければやっていけないって人たちも実はいっぱいいらっしやるんで。だから、そこら辺も含めて考えなきゃいけなくなると、例えば男女の共同参画的な話だけじゃなくて、産業とか仕事とか、もっと給料を上げるような、上げられるような産業を増やしたほうがいいのか、それとも今ぐらゐでいいからそこそこ働いてる暮らし方のほうがいいのかみたいな話にもだんだんなっってくると思っんですけれども。給料、みんな高いほうがいいもんね、それはね。それは私もそれにこしたことはないと思っんですけど。

例えば長野県って、ほかの県から移住してくる人たち大勢いて、例えば、前、飯山に移住してきた人たちと話したときに、東京から来て給料は減っちゃったと。減っちゃったけど、それでもこっちの暮らしのほうがいいんだという人たちもいるわけですよ。さっき、若い人たちがどんどん県外に出ていっちゃうって話とも関連すると思っんですけれども。皆さんにとって居続けたくなる地域、あるいは出ていっちやいたくなる地域、今、飯山の話をしたのは、経済的な環境と自然環境みたいな、ちょっと次元の違っただけけれども、どっちをとるかってい

ったら、その人たちは経済じゃなくて環境をとったわけですよ。もちろん逆をとる人も、逆をとる人のほうが多分、今まで多かったんじゃないかなっていうふうに思うんですけども。それって、何ていうか、さっきの人口動態を考えたときに社会増になる、あるいは社会減を食い止めるときに、どんな磁石が、ちょっと言い方は悪いけど、どんな磁石が一番人をひきつけているのと。

でも東京は、多分いっぱい稼げる仕事があるというふうに私は感じるし、もちろんピンからキリまでだけども。でも、うんと稼ぐ仕事は確かに東京にはいっぱいあるし。そういうところにひきつけられるということも人間としては自然な感じはするんだけど。これから、全くどこでも自由に住んでいいよ、地縁、血縁、今、持っている土地とかそういうものを全く度外視して自由にどこかへ住んでいいよっていったときに何が一番ひきつけられるんですかね、何に引っ張られるの？ 思いついたことでもいいから、パッと。何にひきつけられるの？

【参加者】

趣味。スキー。

【長野県知事 阿部守一】

ほかには。

【参加者】

窮屈さを感じないというか、先ほど前例主義とかって言っていましたよね。何ていうか、ちゃんと理屈に合った、何ていうか、決まり事とかであればいいんですけども、よくわからない決まり事とかあったり、そういうところはやっぱり行きたくない。

【長野県知事 阿部守一】

今は割と理屈に合わない決まり事がいっぱいあるっていう感じですか。

【参加者】

多少はありますけれども、それでも苦になるほどではないかなと。

【長野県知事 阿部守一】

はい、ありがとうございます。

【参加者】

気候。

【長野県知事 阿部守一】

気候ね。気候っていうのはどういう意味？

【参加者】

沖縄とか・・・

【長野県知事 阿部守一】

温暖なほうがいいということね。やっぱり気候は、やっぱり自分の体との関係では重要？

【参加者】

そうですね。冬とかは無いほうがありがたい。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。ほかには。

【参加者】

生活がしやすいというか・・・

【長野県知事 阿部守一】

それはどういうこと、具体的に。

【参加者】

人によって違ってくると思いますけど。例えば子育てがしやすい環境、助成金が出るとか、支援金が出るとか。

【長野県知事 阿部守一】

助成金？子どもいるの？

【参加者】

今、8カ月なんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

今も少しは何かもらっている？今も子ども医療費の助成とかは、県と市町村でやっているはずだけどね。そういう助成が多いということは、子ども、子育てへの支援が手厚いところだということ？それとも全般的に何かいっぱい行政が面倒見てくれるところ、何が核心？

【参加者】

子育てする際に負担の減るような。

【長野県知事 阿部守一】

子育ての経済的な負担が軽くなるということね。お金の問題だよねどっちかということ。

【参加者】

一番はお金なんだと思います。

【長野県知事 阿部守一】

ほかには。

【参加者】

便利さと自然みたいな豊かさのバランスのとれたところ。

【長野県知事 阿部守一】

バランスね。自然だけあっても嫌だし、便利さだけで自然がないのも嫌だと。

あと、はい。

【参加者】

治安がいいところ。子どもも自分も幸せに暮らせる場。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。日本は何か治安って、水か空気ぐらいにしか思っていないけど、海外へ行くと重要なキーワードで、日本でもこれからは重要だと思いますけど。

【参加者】

災害が少ないとか、同じ意味で。

【長野県知事 阿部守一】

あとは？

【参加者】

いろいろなことが学べる場所ですね。

【長野県知事 阿部守一】

学べる？

【参加者】

学ぶといっても学問とか勉強だけじゃなくて、いろいろな人とかかわり合いながら学べるという…

【長野県知事 阿部守一】

かかわり合いながらね。実体験を通じて学べるみたいな感じ？例えば今の世の中で具体的にはどんなイメージ？どこの地域とかこんなこととか、何か具体的イメージはありますか？

【参加者】

私、上田と、あともう一つ小海町というところにしか住んだことがないのでわからないんですけど、上田はすごいいろんな人がいるし、まちづくりっていう面でもいい雰囲気とかもすごいあって、いろいろ学びやすいところかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。上田は長野県の中でも結構そういう、人と人が一緒に何かするという活動が活発な地域ですね。ありがとうございます。あと、どうぞ。

【進行役 吉澤茉帆さん】

私、ちょっと最近、引っ越したいなみたいな気持ちになってきていて、その原因の一つは行政の判断というか、そのお金の使い方に対する不信みたいなのが。

【長野県知事 阿部守一】

税金の使い方、それ結構重要な話だよ。趣味、暮らしやすい、気候、子育てという、便利さと自然のバランス、ちょっと、最初に私が切っちゃったかもしれないんだけど、お金稼げるってということとか、仕事とかがってというのはどれぐらいの意味とか。お金、さっきバランスの話があって、さっきの飯山の人の話もしたけど、多分バランスなんだろうなという気はするけれども。ただ、やっぱり最低限の収入はそれでもなければ困りますね。それが多分、前提だと思うんですけども。うんとお金持ちになりたいっていう人はどれぐらいいるの？どれぐらいお金持ちになりたい？ビル・ゲイツぐらいになりたい？

【参加者】

総資産10億。

【長野県知事 阿部守一】

例えば10億、財産を築けるとしたら、もうあとのことはもう全部捨ててもいい？

【参加者】

いや、でも幾ら何かお金持ちになってもやっぱり何か、何か働いて収入とか少しでもこう得たりして社会生活をしていないと、何か充実していないかなという気はするんで。

【長野県知事 阿部守一】

それはそうだね。

【参加者】

幾ら財産があっても、やっぱり働き続けるとは思っています。

【長野県知事 阿部守一】

あなたは何でお金持ちになりたいの？

【参加者】

今、一人暮らししているんですけど、すごい食費がかかってきているんで…

【長野県知事 阿部守一】

食費は10億もかからないでしょう。

【参加者】

でもやっぱりお金があれば、好きなだけ食べられるというのが。将来、子どもはほしい気持ちはあるんで、でも日本の景気が今、ちょっと悪いと思うんで、子どもを育てて働いても思うように養っていけないって思うんですね。

【長野県知事 阿部守一】

そうか、ちょっとわかった。養っていけないから金がほしい、金があったらと。さっきどなたか、これからの不安という話もありましたけど。その話はまたちょっと別のテーマとして、「将来不安」ってホワイトボードに書いておいてください。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ちなみに、今日若いイケメンが多いんですけど、この方々の多くは公務員になりたいそうです。だから経済的にすごい金持ちになってやろうっていうタイプの男子たちじゃないっていう。

【長野県知事 阿部守一】

金持ちになりたくないから公務員になるっていうこと？

【進行役 吉澤茉帆さん】

なりたくないではないけど、何か違うものは求めているという。

【長野県知事 阿部守一】

そうね、ちょっとどうやって進めようかな、時間が限られているんで。住む場所を何で選ぶかっていうのは、例えば長野県とか上田市にどんなものが欠けているかとか、どんなことをしていったらいいかっていうことの、多分、入り口の話になり得るんだと思うんですけども。例えば気候は、正直なかなか変えようがないけど、さっき治安のよさって言うてもらったけど、

治安のよさは長野県、いいでしょう。

【参加者】

いいと思います。

【長野県知事 阿部守一】

災害は必ずしも少なくないから、ちょっとここは課題ではあるね。あと、子育てのしやすさ、経済的支援って、今、言われているのはまだ足りないってことです。何をしてくれればいいと思う？

【参加者】

何が足りないかは正直わかりません。

【長野県知事 阿部守一】

わからない、まだこれからだね。

【参加者】

ただ何か知り合いで、富山県出身なんですけど、長野県の過疎化が進んでいるような地域で養育費とか、そういったのを結構支援していると聞きました。

【長野県知事 阿部守一】

そうそう、結構、村とかのほうの手厚いです。

【参加者】

そういった話を聞いて、そこまで支援があるといいのかなという。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。これ結構、行政としては一生懸命やろうとしている分野ではあるんだけど、もうちょっと、これ深掘りすると、さっきのこの便利さとの兼ね合いみたいな話で、例えば上田市よりも手厚く子どもの医療費を助成している自治体とか、県内でもあるわけですね。高校卒業まで子どもの医療費の助成がある、あるいは保育料もうんと減らしますというような。それって何ていうか、生活の環境の、多分不便さと、そういう支援とどっちをとるかっていう選択になってくると思うんだけど。どれぐらい強いインセンティブになっているんですか？

ちょっと、これ、私が参考までに知りたいんだけど、程度の問題にもよるのかもしれないけど、まだ、実際子ども、18歳まで育ててないから実感はないのかもしれないけど、どれぐらい手厚ければ引越しまでしちゃってもいいと思うんだろう。そこまでは考えない？

【参加者】

そうですね、正直言って、具体的にはわかりませんが。たださっきの、子育てはお金がかかるとかいろいろな、そういった情報があるので。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。これ、やっぱり、みんな最後は将来がよくわからないということですね。子どもを産んだけど、これからどれぐらいお金がかかるかわからないし、これから子どもを産んで本当にやっていけるかっていう話もあるし。将来がよくわからないということだね。不安っていう

ことは絶対心配しているわけじゃないけど、よくわからないから心配なんですね。これは、結構重要なキーワードかもしれないなと思いますよね。

それから、あと、いい？、私、少し参考にしますけど、住む場所で、これが磁石のコアだっというのをもうちょっと言いたい人がいたら、いい？、はい。

【参加者】

知事が先ほどおっしゃったように、やはり大前提というのは僕も経済だと思うんで。

【長野県知事 阿部守一】

大前提はね、大前提としての一定の稼ぎね。「一定の稼ぎ」って書いておいて。そこはやっぱりないとね。

【参加者】

みんなやはり大手企業に勤めたいとか公務員になりたいとか安定を求めると思うんですけども、そういうものって地域が企業誘致してくれたりだとか、市役所とか県で職員を募集するってならなければそうはなっていないけれど、今は例えばどんな過疎地、田舎に住んでいても、インターネットで世界中に発信したりだとか起業したりっていうことができるようになったなということで、行政としてそういった起業支援をしてくれるような、そういった仕組みっていうのがあると、もっと若者が挑戦しやすいんじゃないかなというふうに思います。

【長野県知事 阿部守一】

起業支援ですね。そうそう、さっきね、最初発表してくれた人たちの中にも、その挑戦とか起業とかっていう話があって、私は全くそう思っています。今、日本で一番起業しやすい県にしようということで、ワンストップの窓口をつくったり、1,000万円まで創業支援資金の融資をしたりとかやっていますし。

昨年もアメリカのコロラドへ行って、コロラドは州を挙げて起業支援をしているんです。スタートアップ支援をしていて、ガルバナイズ (Galvanize) っていう組織で、このまちなかキャンパス風の雰囲気のある建物1棟が起業したい人たちのインキュベーション(起業等をサポートする)的なオフィスだったり、あるいは共同で学ぶ場であったり、あるいは、例えばこれからスタートアップでやっている人たちに先輩とか、あるいはもっと大きな企業、そういう人たちが応援してあげる場だったり、そういうものをつくっています。

コロラドへ行ったのは、県立大学を来年4月に開校しますので、県立大学の理事長予定者が、安藤国威さんといってソニーの社長をやっていた方で、安藤さんはイノベーションをもっと広げなきゃいけないと。長野県立大学もグローバルとイノベーションがキーワードなんですけれども、やっぱり知事もコロラドのこういう取組を勉強しなきゃいけないよって言われて一緒に行ってきたんです。今、産業労働部でもそういう場づくりを検討していますので、ちょっと起業の話はまたしっかり考えていくようにしたいと思います。では、住む場所の話はひとまず置くとして。

次、その一定の稼ぎの話とか、公務員の話が出たんで、働く話。まず何で公務員になりたい

の？公務員になりたいっていう人は何で公務員になりたいの？どうぞ。

【参加者】

やっぱり安定しているからが一番だと思います。あと民間だと、なぜか不安を感じます。

【長野県知事 阿部守一】

また不安なの。若者のキーワードは不安？もしかして。

【参加者】

安心感がないというか、安心して仕事ができるのかなっていうのかまだ全然わからないんですね、自分。

【長野県知事 阿部守一】

今、何年生？

【参加者】

今、専門学校の1年生です。

【長野県知事 阿部守一】

公務員ね、そうね。ちょっと公務員の先輩がこちら辺にいっぱいいるんだけど、公務員は不安はない？

【県職員】

安定しているって何だろうかって、僕、むしろ若い人たちに思っちゃうんですけどね、安定って何？

【長野県知事 阿部守一】

いい投げかけだね。やっぱりこの不安が結構重要なキーワードかなと思うんで、多分この不安を解消しないと、世の中が元気になってもらえないような気がするんで、何で不安なのかな。安定している、その今の投げかけに対して、安定しているってどういうことかな。

【参加者】

会社はやめさせられたりとか。公務員はないので、やはりそれが・・・

【長野県知事 阿部守一】

悪いことをしたらやめさせるけどね。

【参加者】

一生、そこで働けるといのが、公務員、一番かなって。

【長野県知事 阿部守一】

ではちょっとその話で少しやっていきます。安定って何、さっき、結構、皆さん、将来不安、子育ての不安、結婚の不安とかいろいろあって、安定しているっていうのはどういうことですか、安定するっていうことは。

【参加者】

会社がつぶれない。

【長野県知事 阿部守一】

会社がつぶれないね。

【参加者】

いきなりつぶれることがあるので。

【長野県知事 阿部守一】

あと、はい。

【参加者】

育休がとればいい。

【長野県知事 阿部守一】

ちゃんと厚生制度がしっかりしている。

【参加者】

ボーナスが出る。

【長野県知事 阿部守一】

ボーナスがちゃんと。君はやっぱりお金のこと？いや、それは別に悪いことじゃないけれどね。あと、はい。

【参加者】

公務員年金がありますね。

【長野県知事 阿部守一】

もう厚生年金一元化だよ。もうほとんど公務員のメリットはないと言ったほうが適切かなと。身分保障があるというところがかろうじて残っているけど、それも私は将来どうなるかわからないと思っているけど。

ちょっと、これ仕事の安定だけど、社会の安心感とか社会の安定感ってちょっと広げると何かありますか。こうなっていたら安心して暮らせるという。

【参加者】

もし、例えば何か病気とか、あるいは起業しました、失敗しました、それでもすごいひもじい暮らしにならないっていう、そういう何か・・・

【長野県知事 阿部守一】

セーフティネットみたいなね。

【参加者】

保障みたいなのがあれば、いろいろチャレンジとかもしやすい。

【長野県知事 阿部守一】

チャレンジして、失敗したり、病気になったりしたときに最低限は何か支えてもらいたいということね。

こんな感じかな、ちょっとでは仕事の話でいくと、何というか、私の個人的な意見は、未来永劫つぶれない会社なんていうのは、多分ないんじゃないかと私は思っていて。不安な社会だ

から、昔は何となく大きな会社に入れば、いつまでも続くというような幻想が広がっていた時期もあったけど、今って大きな会社だっていつどうなるかわからないっていうことがあるかもしれないなと思うし、私は、でもそれってしょうがないような気もしているんですよね。世の中の変わっていくスピードが、私が20代のころと比べると相当加速化しているなと思うんです。今、ポケットにスマホを入れていますが、私が公務員になったころは、まだ、パソコンもなければ、ワープロ専用機もなかったぐらい、あったかな。まさかこんなものでいろいろな人とテレビ電話もできちゃうし、メールのやりとりもできちゃうし、世界中の情報をいつでも見られるようになるなんて、私が皆さんのころは全く夢にも思っていなかったし。だから、そのときあった会社は、時代とともになくなっちゃたものも当然あるわけですね。今のこの時点の世の中に存在しているものが、これから20年後、30年後も同じような形で存在しているかどうかどうかっていうと、もちろん残るものはあると思うけれども、変わっているもののほうが私はかなり多いんじゃないかと思うんです。そうすると、会社っていうのも何か一つのことを、今、長野県は製造業のウエイトが高いですけども、長野県の製造業って、今どんどん変わっています。会社自体が変わる、会社の業務内容が変わるといってもあれば、倒産して、また新しい会社が起きるといって新陳代謝もあるようにしているので。何か、私は、一つの組織に入らずずっと同じような仕事の仕方をしていくことが、安定、安心だと思うのであれば、その幻想は捨てたほうがいいかなって感じが正直しているんですけどね。

むしろ、今みたいに世の中がどんどんどんどん変化しているときは、最初のころ出ていた意見のように、挑戦できるようにしてくれ、あるいは挑戦して失敗してもセーフティネットが必要だっていう、そっちのほうが私は大事というか、重要性が増してきていて、みんながみんな公務員になっても、世の中、困っちゃうなと。むしろ、新しい社会のニーズは何かと。何がみんなが求めているものなのかっていうことを考えて、それを事業化する人たちが増えていかないと、長野県は、私は確実に取り残されてしまうなというふうに思っているんですけども、どうですか。吉澤さん。

【進行役 吉澤茉帆さん】

会社がつぶれるかもかっていう不安って、どこかに勤めなければ生きていけないっていう不安感かなと思いました。

【長野県知事 阿部守一】

どこかに属さないというね。

【進行役 吉澤茉帆さん】

長野に帰ってきて思うんですけど、無職ですって言ったら、結構、食べ物をくれたりとか、そういうことがあるのに、東京だったら絶対、「無職になっちゃって」と言ってもお金を払わないと生きていけないじゃないですか。こっちは畑を自分でやるとかっていうこともやりやすいから、そういう、何ですか、働かなくても勤めてなくても生きられるっていうのは、多分、私だけかな。あんまり自分で畑をやったことがない人は、その自信が持てないかなとは思いま

した。最悪、自分で農業をやって自分の食い扶持ぐらい稼げるよとかは思えないし、だからどこかで働かなくちゃって思うけど、それはすごく人に左右されるっていうか、やめさせられるかもしれない、飛ばされるかもしれないみたいな、どうかな。

【長野県知事 阿部守一】

その話も結構重要なポイントかなっていう感じがするんだけど。何ていうか、人間というのは一人では生きられないんで、だからどこかに帰属意識を持つということは安心に、私は確実につながるんだろうなというふうに思います。ただ、さっきどなたか言ったように、日本の場合はあまりにも仕事偏重、昔はエコノミックアニマルみたいな言葉があって、もうほとんど会社と人生が一体の時代があって、今もまだそういう、何というか、会社のために人生を捧げるみたいな人も中にはいるかもしれないけれども、だんだんその生き方とか考え方って変わってきているんじゃないかなと。別にそれを絶対やっちゃいけないとも思わないけれども、何かそられて多分、むなしさが残るような気が私は個人的にしています。

そうすると、さっきの公務員の話で、どこに安心感を求めているのかっていうところなんですけど、例えば安定した組織に属しているから安心だということなのかな。何を求めているのかっていうのは、そこら辺のことなの？それは、例えばその、公務員じゃなくても安定した組織とか、安定したグループがあればそこで代替できる？

【参加者】

やっぱり働いてないと安心はできません。

【長野県知事 阿部守一】

僕は、吉澤さんに言ってもらったように、働き方っていうのは多様な働き方があると思っていて、県では、例えば1人多役の社会にしましょうと言っているわけですよ。例えばうちの県内って夏は農業、冬はスキー場とか、そういう働き方、今の社会の中では何となく不安定な職業、不安定な働き方という形になっちゃっているんだけど、結構だんだん、例えばインターネットで世界とつながったり、仕事をみんなでシェアするようになってくれば、例えば月曜から金曜日まで働いて土曜と日曜日は休みますっていう働き方が、本当にノーマルであり続けるのかっていうところからして、私は実は疑問だなというふうに思っています。

「ワークシート」っていう本があって、あれはこれからの働き方、どうなるかっていうことが書いてあるんだけど。例えばインドは数学の能力とかITの能力が高い人たちがいる。そこの人たちと別の地域の人たちがインターネットでつながって、もうそれでプロジェクトをやって何かつくっちゃう、何か売っちゃう。しばらくして、ちょっと別のものをまたつくろうかといったら、また違う人たちの組み合わせで新しいものを研究してビジネス化しちゃうと。もう実際、社会はだんだんそういうふうになってきていると、私は実感として感じているんで。

それって、その働き方、例えば私がインドのIT技術者とどこかの企業に対して、私が日本市場に踏み込むにはこんなことがいいんだぜっていうことをアドバイスできる例えばコンサルティングをやって、その3者でつながってビジネスをやっちゃいましたということを考えて

ば、私はどこの組織に属していなくても、もしかしたらうんと儲けられるかもしれないし、別に月曜日から金曜日までわざわざ職場に縛りつけられてなくても、働いた充実感も得られる社会になるかもしれないなど。私は多分、そっちの方向になっていく確率のほうが高いんじゃないかなっていうふうに個人的には感じています。

私は結構、将来的にはこうなりそうだなというのは当たるほうだと思っているんで、だんだんそうになっていくんじゃないかなと。そうすると、もし世界のビジネスがそういうやり方で動くようになってくれば、もう就職してから定年になるまで同じ組織に属していたいとか、いるというほうが、場合によっては私はリスクになるんじゃないかなというふうにも思っています。これはちょっと私の予想ですけどね、どう思う。

【進行役 吉澤茉帆さん】

聞いてもいいですか、知事って、考えたら、ものすごく不安定な職業じゃないですか。

【長野県知事 阿部守一】

私の仕事の保障は来年の8月31日までですから。

【進行役 吉澤茉帆さん】

それ無職になる可能性があると・・・

【長野県知事 阿部守一】

来年の9月以降は、私は無職になるかもしれない。

【進行役 吉澤茉帆さん】

そうですね、不安じゃないんですか。

【長野県知事 阿部守一】

何かね、もうそこは越えちゃったって感じ。私、最初、公務員ですから。私、最初公務員で、霞が関の自治省っていうところへ入って、2007年にやめたんですね。それで、やめて横浜市の副市長になったんです。昔の自治省とか総務省というのは、大体国と地方を行ったり来たりするんで、定年までずっと身分がつながっていて、定年した後は昔からよく言われている、天下りのなどこかの会社の顧問にさせていただきますみたいな人生が一般的。

私は、何かそれってつまらないなど。何かそれってみんなと同じじゃないかという感じを強く持って。それで横浜の中田市長とあるところである人に紹介していただいて横浜の副市長を探していると。阿部さんどう？とか言うから、総務省に頼めば身分をつながせてもらうというのもできたかもしれないけど辞めて、横浜市の副市長になったんですね。そこからもう身分不安定ですよ。副市長も任期4年しかないし。その後、内閣府の行政刷新会議に行ったけど、行政刷新会議も任期付採用というので、それで公務員だけど未来永劫は雇ってやらないぞという話だったですし、選挙なんかまさに、皆さんから落選させられたらもう無職なんで。だからそういう意味では、私は今は安定とは対極ですよ。

【進行役 吉澤茉帆さん】

そうですね。

【長野県知事 阿部守一】

安定とは対極なんだけど、でも何かその、さっき農業の話あったじゃないですか。長野県に住んでいけば飢え死にはしないだろうなと思っているんですよ。

【進行役 吉澤茉帆さん】

そこの安心感で。

【長野県知事 阿部守一】

私、今、小諸に家があるけど、近所の農家からいっぱい野菜もらっているし、死にはしないだろうなと。健康で死ななきゃ何かできるだろうなと。健康は大事だと私は思っているんですけどね。

【進行役 吉澤茉帆さん】

何かできるだろうなっていう感覚が薄いのかもかもしれません、不安な人は。

【長野県知事 阿部守一】

若い人たち。

【進行役 吉澤茉帆さん】

若い人は。

【長野県知事 阿部守一】

多分、そこら辺がちょっと我々が考えなきゃいけない問題かなという感じですよ。

【参加者】

多分、生きがいとか働きがいみたいな話と安定っていう話が、まだ働いてないから見えてないのかもしれない。何だろう、ずっと安定している仕事のイメージが、多分ないんじゃないかなと思うんですよ。知事もそうやって不安だけれども越えちゃったってさっきおっしゃったじゃないですか。多分、働いていることにおける働きがいみたいな話と安定って、どこかでこう、相殺ではないんだけど、トレードオフしたりするところも出てくるんだろうと。

【長野県知事 阿部守一】

働きがいと安定ね。例えば今って昔以上に転職する人が多いじゃないですか。それはやむを得ず転職する人もいるかもしれないし、積極的に転職する人もいるから、昔よりは何か、この安定とやりがいのウエイトも大分変わってきているような感じは、私はしているんですけどね。どうですか、その働き方、安定性、働き方ってどんな感じ？

例えば、今、学生の人たちってまだ働いたことがないんだろうけど、皆さんは私が言っていたことに共感する？、それとも、そんなことじゃなくて、私は安定した公務員になりたい、大きな会社に入りたいっていうどういう感じ？。

ではもうちょっと単純に言うと、さっき言ったように、私はもっと起業する人が増えないと社会は進化していかないと思っています。ではどちらか選んでくれ、起業家になるか公務員になるかといったら、今、学生、何人いるの、この中に。その学生の人たちに聞くけど、起業か公務員か、2つに1つしか選択肢がないといったらどちらがいいの。では企業がいい人？・・・

では公務員がいい人？、ちょっと、今、起業で手を上げた人と公務員に手を上げた人で、ちょっとディベートしてもらおうと思うんだけど、何で起業がいいか、何で、起業で手を上げた人、何で起業がいいの。

【参加者】

世界は本当にどんどん進化して、今ある会社とか職業は、当然なくなっていくと思うんですよ。それを自分でつくりたい、新しいものを。

【長野県知事 阿部守一】

新しい社会をつくりたい。

【参加者】

はい。

【長野県知事 阿部守一】

あと起業・・・

【参加者】

起業をするにしても、やっぱり元手と信用がなければ起業は難しいと思うんで。だけど起業したことでやっぱり、公務員を過小評価するわけじゃないんですけど、やっぱりそれよりも価値があると思うんですよ。

【長野県知事 阿部守一】

公務員よりもね。

【参加者】

はい。

【参加者】

何か、毎日、同じことが嫌なので変化を求めたい。

【長野県知事 阿部守一】

本当によくわかります、それ。毎日、同じことじゃなくて、いろいろ刺激的に新しいことをやりたい。

【参加者】

そうですね。だから、知事のおっしゃったことにすごい共感していて、私はまだ高校生なので働いたことが全くないので、その働くってということがどういうことなのかまだ全然わからないんですけど、でも、ある意味不安定だけど、自分の好きなことをやって行って、そこで何か自分に対する自信とか、充実感というのを求められたらいいなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

あと起業で言いたい人。

【参加者】

私、何か世の中なめているって、結構、大人に言われるんですけど。上の人から。年上の人に敬意を払うことはもちろん必要だとは思いますが、だからといって、上の人から圧迫を

受けつつ、上の人の目線を気にしては働きたくはないので。

【長野県知事 阿部守一】

だから公務員じゃないほうがいい、自分でやったほうがいいと。

【参加者】

やりたい。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。では公務員がいいよっていう人、はい。

【参加者】

さっき起業側の人の方の言っていることを聞いてもちろんよくわかるし、格好いいし価値があるというのもわかるんですけど。どうしても失敗したときのこと、うまくいかなかったときのことを考えると、起業よりは公務員のほうが安定、失敗がないって言ったらそれはちょっと語弊があるんですけど、そういうところがあると思います。

【長野県知事 阿部守一】

はい、ありがとうございます。ほかに。公務員、もっと手を上げていたじゃない。あと誰だっけ。

【参加者】

自分は、一番先に失敗が怖いかなと。

【長野県知事 阿部守一】

失敗が怖い？

【参加者】

地道に頑張っていくことが大事なことだと。挑戦するより。

【長野県知事 阿部守一】

ではそこの2人続けて言って。

【参加者】

自分は、理由ってというか親との約束で、もともと、俺、大学に進学したくて、それで大学進学に失敗したら公務員になれって言うふうにならなくて、失敗しちゃったので。

【長野県知事 阿部守一】

親との約束を守らなきゃいけないから公務員と。

【参加者】

はい。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。はい、もう1人。

【参加者】

自分はそんな公務員がいいとかそういうことじゃなくて、起業とか何か難しいですし、一から始めるのが面倒くさいので、だったら公務員で。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。これ公務員を見ると、失敗したことを考えると、難しいとあって、地道に続けたいとか、これ公務員の皆さん、多分、言いたいことがあると思うんで、公務員として、ちょっと何か言ったほうがいいのでは。

【県職員】

確かにわかります、失敗はないとか、確かにずっと働き続けられるとか、育休をとりやすいとかあるかもしれないんですけど。そんなに毎日、楽じゃないなという。それはやっぱり公務員も生み出さなければいけないしというのもあり、何かこう起業する人って、すごく格好いいし尊敬するなって、日々公務員として働いていて思っています。どっちもよさはあるんだと思うんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

そうね。私の意見、あんまり言っちゃいけないんだけど、もちろんどっちの選択肢が正しいということはないから、両方必要だと思っていますので。もちろん公務員だっていてもらわなきゃ困るし、起業家もいなきゃ困るんでどっちも重要だと思うんだけど。若干心配なのは、公務員を選ぶ人がちょっとネガティブな選択肢としてしか選んでいなくて、ポジティブな選択肢になってないところが、これは私の責任かな。

【進行役 吉澤茉帆さん】

あなたは何で公務員になられたんですか。

【参加者】

僕は、3年間民間で働いてからの転職組なんですけども、いろいろ若い人のお話を聞いていて、お金を求める方は目いっぱい、本当にもうつらくなるまで一度働いてみたらいかがですか。僕は3割給料が安くなるけど公務員を選びました。それは時間がほしかったんです。やっぱりこう理想的な思い描いている家族像みたいなところに、余暇の時間に子どもと遊びたいという、その一つのバランスの中で考えた一つの選択肢だし、それがたまたま公務員だったというのもあるんですけど。

ただ、入って一つ思ったことは、そんなに楽じゃないということと、一番大変なのは、3年ないしを機にある異動、これがもうある種、転職と同じだと思っています。まるっきり知らない分野のところに行くこのストレス、これが一生、定年まで免れないというこの事実を先に知っておいてください。

今日はあんまりいないと思うんでいいですけど、ときにはストレスでちょっと頭皮が痛んでくるので、ちょっと体型にあらわれるような人も多くなって僕は民間の人より思いました、公務員の中に。という事実も知っているんで、いろいろ試してみてください。

【長野県知事 阿部守一】

ちょっと、一言だけ言うと、私は何で公務員になったかというクリエイティブな仕事だと実は私は思っているんですよ。さっき起業で世の中を変えたいって、公務員も世の中を変え

られるんですよ。だって何かいろいろな規制してとかね、いろいろな補助金を出したりしていて、もちろん県だったら、知事とか県議会がうんと言ってくれないと1人ではできないかもしれないけど。

やっぱりこういうことが必要だとか、こんなことをやりたいとか、そういうことを考えて実現しようというふうに考えれば、民間企業の人たちができないことだっていっぱいやれるわけですよ。だから、そういう意味で、公務員のイメージが非常にネガティブだという感じをいつも思っているんですけども、実はクリエイティブな仕事だし、クリエイティブな仕事にしていかなきゃいけないし、クリエイティブな人たちが集まらなきゃいけないなと思っています。

そういう中で、さっき、ちょっといろいろご不満があるということも、やっぱり公務員の発想の柔軟性がやっぱり私はまだまだクリエイティブになり切れてないよねっていうふうに私は思っています。そこはまさに行政もまだ過渡期かなと。行政を変えていく、社会を変えていくのも行政を変えていくのも本当は皆さんですよ。皆さん主権者ですから、日本国の主権者ですから、皆さんが国のあり方を考えてつくっていく人たちですから、そういう意味では、県とか上田市とか、国に対してももっと自分たちの考えとか意見を出してもらおうということが本当は重要なんで、ぜひちょっとそういうことで考えてもらいたいと思います。

では、あと、この将来不安というところで少し話をしてみたいと思いますけれども。さっきから幾つかいろいろなキーワードが出ていますけど、私、一番、皆さんと話していて頭に引っかかったキーワードは、この「不安」なんですよ。不安。それで不安な状況だとやっぱり思い切った生き方はしづらいなというふうに思うんですけども、どうすれば不安がなくなるの？

ちょっと不安の種類も、給料を稼げない不安だとか、健康の不安だとか、いろいろな不安があると思うんですけど。皆さんの不安って何ですか？これが不安でこうなったらいいなっていうのは、みんなどんなことを感じているんですか？

【参加者】

やっぱり、何かあったらどうしようということですかね。

【長野県知事 阿部守一】

さっきのセーフティネットが必要みたいな話、だから病気になったりとか、仕事がなくなったりしたときとかですね。

【参加者】

ただ一方で思うのは、その不安を抱えていて動けないっていうのであれば動かなくていいかなって。本当にやりたいことがある場合は、その不安より自分のやりたいことのほうへ突っ走っちゃうんで、だから不安を感じて動けないなら、それはそれで一つの自然の流れかなという気もします。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。働いてない人の不安はない？

では、別に不安はないっていう人はどのぐらいいるの。今、不安はない？今、不安があるっていう人？みんなあるんだね。ちょっとみんな言って。

【進行役 吉澤茉帆さん】

では、今から不安を出し合う会にします。不安出し合い会議。

【参加者】

お金がない。

【長野県知事 阿部守一】

お金がない。あとは？何が不安なの？

【参加者】

景気が悪い。

【長野県知事 阿部守一】

景気が悪い。

【参加者】

親がいつ不自由になるか、介護が必要になるかがわからない。

【長野県知事 阿部守一】

親の介護ね。

【参加者】

夢がない。

【長野県知事 阿部守一】

夢がない？

【参加者】

やりたいことがない。

【長野県知事 阿部守一】

まだ自分の夢が見つからない？

【参加者】

見つければ不安も、それこそかき消されるというか。

【参加者】

自分の体が不自由になったときに、ちゃんとやっていけるか。

【長野県知事 阿部守一】

自分の健康ってということ？

【参加者】

もしそうなった場合、あるいは老後の年金も不安。

【長野県知事 阿部守一】

今、何歳？

【参加者】

29歳です。

【長野県知事 阿部守一】

それで心配？

【参加者】

でも何か、40年先とか考えると大丈夫なのかなと。

【参加者】

子どもがちゃんと大人になるまで、自分が健康で働けないとまずいなみたいな不安。

【長野県知事 阿部守一】

自分の健康、家族を考えたときに。ではちょっとそこのテーブルの6人の人たちは。

【参加者】

夢と現実のギャップってどうか。

【長野県知事 阿部守一】

夢と現実のギャップが不安ってということ？

【参加者】

修士へ行って博士へ行って起業したいっていう夢があるんですけど、実際には子どもほしいので、そうすると早目に就職してお金を稼いでということが。

【長野県知事 阿部守一】

夢がいろいろあるからなんだね。

【参加者】

漠然とその何十年後かの、自分や自分の周りのことを考えたときに、家族のこととか生活のこととか含めて。

【長野県知事 阿部守一】

今、何歳？

【参加者】

今年で19歳です。

【長野県知事 阿部守一】

そこまで考えるんだ。

【参加者】

私は独り身なんで、このまま孤独死するんじゃないか。30年後、40年後。

【参加者】

何か自分の希望する仕事につけるかどうか。

【参加者】

さっき親との約束って言ったんですけど、その親との約束を守ってもし公務員になったときに、あのとき、もし自分のやりたいようにしていれば後々後悔しないんじゃないかなと。

【長野県知事 阿部守一】

それは誰かに相談したほうがいいかもしれない。はい。

【参加者】

地震です。

【長野県知事 阿部守一】

みんな聞いちゃおうか、はい、そちらの皆さん。

【参加者】

漠然とした不安に対する不安です。

【長野県知事 阿部守一】

どうのこと、何かわからないけど不安なの？

【参加者】

不安でそれでやっぱりいろいろ動けなくなっちゃって。それ、さっき自然な流れっておっしゃったんですけど、先が見えなくて怖い。

【長野県知事 阿部守一】

先が見えなくて怖い？みんなも見えてないと思うけど、私も見えないところがあるから。

【参加者】

それを深く考え過ぎちゃって。

【長野県知事 阿部守一】

はい。

【参加者】

1年半後に大学に受かっているかどうか。

【長野県知事 阿部守一】

受験生？

【参加者】

一応、今、2年生なんですけど。

【長野県知事 阿部守一】

では希望の大学を受けるわけですね。

【参加者】

私は、一般の方たちもやっぱりいつ障がい者になるかわからないという、例えば障がい者を特別な存在と思わずにいつか自分たちにも来るよっていう、たまたまこれが障がい者だよっていうところを何か、どう伝えていけばいいのかという・・・

【長野県知事 阿部守一】

障がい者が特別扱いされない社会。

【参加者】

そうですね、障がい者もやっぱり起業するべきだと思うんで、そういうところのフォローっ

ていう。

【参加者】

結婚できるかなっていう。

【長野県知事 阿部守一】

何歳？

【参加者】

もうすぐ30です。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。

【参加者】

私、今、仕事しながら起業しようとしているんですけども、それは何か本当に40の手前になってやっとやりたいことを見つけたみたいないな感じで、今、すごく充実はしているんですけども、それが何らかの理由であきらめきやいけなくなるかもしれないというのが唯一の不安。あきらめなきやいけなくなったら嫌だなという。

【長野県知事 阿部守一】

今は、希望に向けては進んでいるけど、何か障害が出ることに対する不安。

【参加者】

そうですね。

【参加者】

自分はまだ働いたことがなくて、普通にいけば来年から社会人になれるんですけど、その社会人になったときに初めての仕事でうまくやっていけるかどうかとか。

【長野県知事 阿部守一】

仕事をうまくやれるか。

【参加者】

今、公務員を目指して勉強しているんですけど、勉強が大変で、来年ちゃんと自分が受かっているかちょっと心配です。

【参加者】

私も非常に気を使う仕事なので、それによってやっぱりこうストレスだったりだとか、健康ってというのが、一番、今、不安なところですね。

【長野県知事 阿部守一】

自分の健康ね。わかりました。ありがとうございます。

大体、くくれそうなのかな、何となくくくれそうな気がするけど。親の介護とかも含めた、自分、あるいは周囲の人たちの健康の話と、それから希望する大学とか就職ができるかみたいな話と、それとあと何だっけ、あとお金の話、結婚の話という感じなのかな。地震ね、地震。

【長野県知事 阿部守一】

地震対策は行政の普通の仕事としての防災対策で、例えば住宅の耐震化の補助とか、緊急輸送路の整備とか、砂防施設の整備とかって、なかなか我々の説明の仕方も悪いし見えづらいけど、着実にはやっているんですけど。多分、この地震への備えていうのも、何ていうか、実は県民の皆さんともっと一緒にやらなければいけない分野かなというふうに思っています。何か皆さん、地震に備え何かやっている？何か備蓄している？3日間は自分で生き延びられる？あまりしてないよね。

この間、うちの県の石油商業組合の会長さんと話したら、これから県民の皆さんにお願いしたいことが2つあると。まずいつも車のガソリンは満タンにしておいてくれと。そろそろ空になりそうだけどまあいいやとかって、夜、そのまま放っばらかして、もし地震が来たらガソリンスタンドに行列になってすぐガソリンなくなっちゃうと。長野県は車じゃないとなかなか移動できない人たちも多いんで常に満タン、あるいは満タンに近い状態にしてほしいというのをもっと働きかけたいと言っていたし、それに県も協力してくれって言われたんで、なるほどと。それからもう一つは、灯油も1缶持っていてくれと、灯油も1缶。これたまたま、私が昨日そういう話をしたから申し上げているんですけども。

この防災対策みたいな話というのは、我々もしっかりやりますけど、でも何ていうか、漠然と何か地震が来たらどうしようということをや不安に思っているんじゃないかと、やっぱり一義的には自分の身は自分で守るということですからね。私があんまり言うと、何か県は責任を放棄していると思われちゃうといけなから言いづらいけど、とにかく自分の身は自分が守らなきゃいけないわけです、基本は。だから、あんまり何か不安、漠然と不安を持つのではなくて、不安だなと思ったら、やっぱり自分でできることは一体何なんだと。何か隣近所に働きかけてやったほうがいいのかなんて、あるいは今日は知事と会うから、俺はこんなことが心配でこんなことをやっているけれども、県でこれをやってくれないから俺は不安で不安でしようがないってということで、何か具体的なことを提案してもらおうと、多分この不安は、結構、解消しやすいかなという感じですね。

それから健康ね。私も、多分聞かれたらやっぱり健康が一番心配かなと思いますね。今、長野県が信州ACEプロジェクトってやっていて運動と食事と健診、この3つをしっかりとやってくださいねっていう取組をしているんですけども。あんまりみんな知らない？信州ACEプロジェクトって聞いたことがある人？

まだあんまり知られていないんで、もっとちゃんとやらなきゃいけないですけども、健康の話もやっぱり自分でやれることは自分でやるということが基本なんで。あと、いざというときの医療が受けやすい環境づくりとか、いざというときのセーフティネット、今、生活保護の内容がいいかどうかということは議論があるけれども、一応、最低限のセーフティネットとしては生活保護があるんで、そういうことも含めて、そこは行政がしっかり考えていきますけど、健康の部分はやっぱり、これは、自助努力的な部分が多いかなという感じですよ。

お金とか、仕事につけるか、大学に行けるかというような話は、自分だけでは確かにどうにも不安の解消はしにくいところかなって感じはするんだけど。さっきのこの公務員と起業並べてどっちですかっていう話で言うと、これはちょっと私見ですけども、何というか、この年齢になったら大学へ行かなきゃいけないとか、この年齢になったら就職しなきゃいけないっていう、何か、日本って結構単一路線じゃないですか。何ていうか、この何歳で何、何歳で何ってというのは、さっきの多様性っていう話をされた方もいらっしゃいますけど、本当は、私はこの学びとか働くっていうことも、もっと多様化したほうがいいんじゃないのと、実は思っています。

大学って、別に働いてから大学へ入ったっていいんじゃないの？私はもう一回、大学へ行って勉強できたらいいなと本気で思うことがあるんですけどね。一遍、社会に出ないと問題がわからないところがあって、私、正直言って大学のときはあんまり勉強しなかったなと。本を読んで試験勉強はしましたよね。試験勉強したけど、これが一体何の役に立つのかわからないで私は結構勉強したなと、今の方が、多分もっと深く、本質的な勉強ができるんじゃないかと思っています。

別に私みたいに56歳まで待たなくたっていいんで、24だろうが30だろうが大学へ行ったらいい社会じゃなければ、本当はおかしいんじゃないかと思っているし、私、今度の新しい総合計画は人生100年時代の計画にしなきゃいけないと、人生100年ですよ、もう長野県の平均寿命は男性も80を超えて、女性なんか87歳を超えているわけですから、大体、ここにいる若い人たちはもうほとんど100歳まで生きるという前提で、多分、人生設計を考えてもらうことが必要になってきていると思っています。

そのときに、18歳で大学へ入って、たった4年間勉強して、その後、何も勉強しないで人生を生きていくってことは、私は難しくなってくるんじゃないかなというふうに思っています。そういう意味では、大人になってもやっぱりもう一回学べる、学び直せる、そういう環境が必要なんじゃないかと。それで、例えば公務員をやめて起業する人が出てきたっていいし、逆に長野県庁、今、中途採用を増やしていますから、起業していろいろなことをやったけど、もう少しパブリックな仕事をやりたい人は公務員へ来てもらうとか、これ、私、この二項対立で言ったんですが、こっちからこっちへ行ったらいいし、こっちからこっちへ行ったら私は全然いいと思っていますし、多分、だんだんそういう社会に私はなっていくだろうと、現実、なっていますからね。

そういうことを考えると、仕事につけるか大学に行けるかっていう、一時点だけでちょっと失敗しちゃったということで考えるんじゃなくて、もう少し何か長いスパンの中で考えられる社会、今、まだ日本の社会は大学は18歳で入るのが当たり前みたいになっちゃっていて、入れなければ1浪だとか2浪だとかっていうレッテルを貼られちゃうから、まだ社会がそうっていないけど、だんだん私はそうなると思うし、そういうふうに意識的に私はしていく必要があるだろうと。

仕事も、さっき言ったように、就職するときに就職できなくなっただけでこれからどんどんどんどん、会社の仕事の仕方とか中身は変わってくるんで、そうすると人生の一時点で就職できなかったからもうがっかり、もう俺の人生おしまいというようなことが昔はあったかもしれないけど、だんだんそうじゃないんじゃないのっていうのが私の感覚ですが、これって違和感があるのかな。これってというのは、要するに高校出たら大学へ行くのは当たり前、あるいは会社に入ったらその会社で苦勞するのが当たり前、企業に採用されなかったらもうがっかりきちゃうというのが当たり前っていうことは違うんじゃないのっていうのが、私の今言ったことなんだけど、それって違和感あるの？いや、そんなこと言ったって現実はどうだっていう感じ？どんな感じなの、そこちょっと若い人たちの感覚を教えてくださいたいんだけど。

いや、私はややちょっと先を見て、多分そうなるし、そうなっていかなくちゃいけないということも含めて言っているんだけど。でも昔よりはそうなってきているんじゃないかと、私の年代は感じているんです。

でも若い人たちは、そんなことを知事は言っているけど、やっぱりがっかりだよと、もう人生真っ暗だよっていう、そういう感じなの？

【進行役 吉澤茉帆さん】

どうですか。

【長野県知事 阿部守一】

どうなの。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ちょっとこの希望する進学先、就職先に行けなかったらお先真っ暗になっちゃう可能性があると思う人？・・・気持ち的に。あっ意外とこない。そうならいいけど、そうじゃなくっても大丈夫だろうなみたいなことっていう人？・・・だから多少遅れたりとか人とずれたりしてもこれもいいよねと思っている・・・わけでもない？。

【長野県知事 阿部守一】

微妙だね。

【進行役 吉澤茉帆さん】

微妙ですね。

【長野県知事 阿部守一】

でも、その社会をつくるのは私とか行政じゃなくて、みんなの意識なんですよ、みんなの意識。さっきの、障がい者の人たちも、何かみんなと一緒にするとかしないとかって、法律を幾らつくっても、皆さんの気持ちがそうじゃなければそうならないし、私がここで言っているだけで、いやそんなのは、大学に入るのなんか30でいいじゃないかといったって、世の中の皆さんが、えっ何言っているんだと、そんなのはだめだって、多くの人が思っていれば、幾らそういうことを認める法律とかつくっても世の中変わらないんで、皆さんの意識が一番世の中を変えていくんですよ。

知事がいくら言っただって、行政が何したって、変わらないことは山ほどあるんです。でも皆さん一人一人が周りの人に声かけて、やっぱりこういう社会だよねと、こんなのやってられないからこういう社会にしちゃおうぜっていう広がりできれば、社会は変わっていくと思っているんで。

だから、この大学の話とか仕事の話は、長い目で見ればそんなに深刻じゃないのではないの？今、直面している人にとっては深刻だと思うんだけど。そういう感覚で捉えていったほうが私はいいかなって感じはしているんですけどね。違うの？

【進行役 吉澤茉帆さん】

私は、大学にも行って仕事もついて転職もしたから、そういうことはすごいわかりますけど、まだ20代とかのときって結婚できるかな、30までにはできるだろうなと思っていたんですよ。でもできなかったというのがあったときにどうしたらいいんだろうっていう、その時になって思う不安とか焦りっていうのは、あるかなと思ったりはしますよね。

【長野県知事 阿部守一】

それはどうすれば・・・

【進行役 吉澤茉帆さん】

先輩からは、若いから大丈夫だよって言われるけど、でもどうするかみたいな気持ちは残るというか。

【長野県知事 阿部守一】

最初の話の結婚とか子どもの話に戻って、これでちょっと閉じなければいけないと思いますが、結婚ってどうなの、吉澤さんにとって。いや、この極めてプライベートな問題に、今、行政は婚活支援だとかってかかわっているわけですよ。どうすればいいの、何を求める。

【進行役 吉澤茉帆さん】

いや、そんな私の個人的なあれを吐露していいんですか。

【長野県知事 阿部守一】

だって個人の意見の総和で社会ができているんだからね。

【進行役 吉澤茉帆さん】

私も含め同世代の友達とか見ていると、だんだんとかう何か、求めることが増えているように絞れてないから決められないみたいな、両方あるような気がするんですよ。若いときは格好いい、好き、つき合うみたいな、そういうのがあったんですけど、だんだん親に紹介して平気かなとか、そういうこうチェック項目みたいなのが増えてきて。

【長野県知事 阿部守一】

そうなんだ、それ考え過ぎじゃないの？というのは、私みたいな年代の人間の感覚？そうやってすごく考えるものなの。

【進行役 吉澤茉帆さん】

どうですか、未婚の方々、そういうところないですか。

【参加者】

すごく共感できる。

【進行役 吉澤茉帆さん】

この人と一生添い遂げるって、これで決めていいのかなとか。

【長野県知事 阿部守一】

考えるわけだ。

【進行役 吉澤茉帆さん】

そう、考えモードに入っちゃうんです。

【長野県知事 阿部守一】

感情、情緒、これも私の個人的な、感情面と、その理論的な面とがあって、何ていうか、私はどっちかという感情面が先行するタイプかなと。あんまり頭で考えて、この人はこうだあだあって分析し出すと、人間ってみんな欠点ありますよね、必ず。

【進行役 吉澤茉帆さん】

そういう何か個人の思い込みっていうか不安とか、何かこうじゃなくちゃみたいな気持ちをどうほぐし、いい相手と出会い、結婚までのプロセスを踏むかっていうのは、誰にどうしてもらったらいいんだらうっていう・・・

【長野県知事 阿部守一】

どうすればいい？これは、私、冒頭に言ったように行政としても実はすごい問題だけど。

私は結婚に向かないんじゃないかなというふうに思っていて、全然するつもりなかったんだけど、たまたま転勤で愛媛県庁に行って、そこには異業種交流という女性だけの愛媛の会っていう会があって、でも、なぜか転勤で東京から行ったような人たちだけはそこに混ぜてもらえるという女性の会。そこで出会って結婚したんだけど。向こうも結婚する気は全然なかった。私とという意味じゃないですよ、仕事をやっていたんで、一般的にもう結婚することは考えずに、自分で何か、将来的にも何とかやれるように保険いっぱい入ってとかやっていたわけ。結婚する気がなかったけど結婚しちゃったというのは、なぜかと、あんまり理屈では考えてない。

何かその、そういう縁みたいなものもあるんだけど、どうすればこの結婚という問題に行政がアプローチできるのかなっていうのは難しいなと。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ちょっとじっくり話しましょう。

5 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

ちょっとまた教えてください。ちょっともう時間になったんで。

いろいろなところに話が飛んでしまって、若干まとまりがない話になっちゃったかもしれないですけども、私としては、今日は若い世代の皆さんの意見が、普通の、行政がやるアンケ

ートでは全く聞けなさそうなことをいっぱい聞かせてもらったんで大変参考になりました。皆さんにとっては、どうだろう、少しは何か言えてよかった？ ちょっとこんなのはつまらなかった？ どう？

【参加者】

直接、知事から話を聞くっていうのはないので、機会が。よかったです。

【長野県知事 阿部守一】

やっぱり、仕事の話だとか、一定の稼ぎの話だとか、健康の話だとか、災害とか、あるいは将来の就職とか進学とかって、やっぱりいろいろな不安がある中で、さっきも言ったように自分たちで努力してもらわなきゃいけないことも、これは、私が知事の立場で言うともちろんいっぱいあるわけですね。この中から我々行政がやらなければいけないことっていうのはしっかり考えます。しっかり皆さんからいただいた意見の中から引き出して県として取り組むこと、あるいは市町村にもうちちょっと応援してもらおうこととか、整理をしていきたいと思います。

ただ、私は皆さんに、せっかくこういう形で約2時間、お話を一緒にさせてもらったんでお願いすると、さっき、灯油の備蓄とかガソリン満タンについていう話をしましたし、これやっぱり社会をどうよくしていくかっていうのは皆さん一人一人がちょっとずつ変えてもらう。例えばガソリンの備蓄って別に世の中の的にすごく問題な話じゃないけど、いざ大災害が起きたときは大問題になりますよね、絶対、大問題。でも皆さんが、例えばそうした備蓄をやってもらうだけで、そうしたことが問題にあまりならずに済むかもしれない。だから皆さんと一緒に私長野県をよくしていきたいと思っているんで、今度の総合計画でも、皆さんにはこんなことを考えてねとか、こんなことをやってねっていうことも入れていきたいと思っています。

逆に、今日はこういう形で皆さんの意見を聞かせてもらっていますけれども、さっきもちょっと言いましたけど、皆さんが主権者なんです。私は長野県の知事という役割を果たす人間ではあるけれども、長野県をどうしていくかという発想の原点は、私ももちろん考えるけど、皆さん一人一人なんです。皆さんがこういう県にしたいとか、こういう上田市にしたいとか、こういう日本にしたいということを強く思わなかったら、絶対、世の中変わらなくて今までどおり。さっき言ってもらったように、行政はどうしても前例踏襲、現状維持型になりがちなんです。何でかっていうと、それってもちろん行政の問題もあるけれども、やっぱり民主主義だからだということもあるかなっていうふうに、最近、思っています。

私が独裁者なら、こうしちゃえ、ああしちゃえってやれば、すぐ変わりますよ、世の中。いいほうに変わるかもしれないし、もしかしたら悪いほうに変わる。でも独裁国家じゃなくて民主国家なんで、例えば市町村長を選んでいるのも皆さん、県議会議員を選んでいるのも皆さん、国会議員を選んでいるのも皆さん、私を選んでいるのも皆さんですよ、皆さんわかっています？ まだ選挙権がない人は違うかもしれないけど。

だから皆さんが決めているんですよ、最後は。こんな人たちに任せたくないと思えば落選させなきゃいけないし、こういう人たちにもっと政治をやってもらいたいと思えば、おまえやれ

よと、おまえが知事になれとか、やったほうがいい場合もあるし。何かそういつて皆さんが世の中の主体でなければいけないし、実際、主体なんだけれども、私から見るとまだまだ主体になりきれてないのが日本社会の一人一人の主権者の状況かなと。だから何となく不満はあるけれどもよくなる。あんまり皆さんの期待のとおりにならないうところもあるのにならないう感じはしています。

だから、ぜひ皆さんにお願いしたいのは、どんな社会にしたいのか、どんな国、どんな県にしたいのかっていうのは、ぜひ自分のこととして考えてください。初めに少子化の新聞を見せました。あれは自分たちの問題だと思ってもらえるように、日ごろから意識してもらいたいと思いますし、何か一つでもいい、ちょっとのことでもいいから行動してほしい。頭の中で思っているだけでは世の中変わらないんで、行動っていうのは人に何か言うことでも行動ですから。俺はこう思うからもっとこういうことをやろうよということを話したり、あるいは自分でボランティアをやったり、あるいは自分で起業したり、そういうことを、ぜひ一人一人の皆さんに考えてもらいたい。我々は皆さんの声をどんどんぶつけてもらって、それに対して誠実に応えていくということが仕事だと思っています。これからは私は県民の皆さんといろいろな対話をしていきますので、また機会があったら参加してもらって、どんどん意見をぶつけてもらえればと思います。よろしくお願いします。

【進行役 吉澤茉帆さん】

皆さん、今日、1時半からということで大変長帳場でした。

【長野県知事 阿部守一】

ごめんなさいね、延びちゃって。

【進行役 吉澤茉帆さん】

ありがとうございました。なかなか、まだ話し足りないとか、もっと違うテーマでも話したかったなという方もいらっしゃると思うんですけど、今日は一つ、きっかけになればいいなというふうに思っていて、なかなか10年後、20年後、考えることもないですし、いろいろな方と意見交換すること、あとは世代とか所属が違う方と会う機会というのもなかなかないと思うので、今日のことを一つきっかけにさせていただいて、この後、まちキャン、7時ぐらいまで開いていますので、ぜひ、この機会を使って公務員になりたい人は市役所の人をつかまえている聞けばいいし、高校生は大学生にいろいろ聞いてもいいし、あとは社会人で転職した人にもいろいろお聞きできるかもしれないしというようなことにも使ってもらえるといいかなというふうに思います。

知事はすぐ帰られますか？

【長野県知事 阿部守一】

あと15分ぐらい。

【進行役 吉澤茉帆さん】

あと15分ぐらいはいらっしゃるそうなので、言いたいこととかアピールしたいことがある

方はお話しただければというふうに思います。今日は1時半からご参加いただき、ありがとうございました。

6 閉会

【事務局】

吉澤さん、ありがとうございました。今の話のように、まだ、今日の議論の中で思ったこととか、言いたかったことはあると思います。ここの場で議論していただいてもいいんですけど、封筒の中にアンケートがありますので何か書いていただいて出していただければ、私どもしっかり見させていただきたいと思います。

それでは、以上で県政タウンミーティングを終了いたします。

(以上)